

第4回JOURNAL（8月25日）

8月2日、Huddersfield

Universityのスタジオの制作期間が終了。作品はまだ制作途中であるものの、これでイギリスでの制作が終了となりました。日本に帰国後、自分のスタジオで制作を続けることとなります。2か月という制作期間で作品を仕上げたしまうことは難しいであろうと最初から予想していたので、未定の部分を残したまま

Jeanetteと別れることに不安の気持ちはありません。むしろ、イギリスという場所や経験から、時間的、空間的に離れた自分のスタジオで、改めて作品と向かい合った時に感じる何かを期待しつつHuddersfieldを後にしました。

Huddersfieldを離れJeanetteとの最後のミーティングの日までの10日間、いろいろな展覧会を見たり、イギリスで出会った人々ともう一度会ったりして過ごしましたが、それと同時に、スタジオから離れたところでこれまでの制作を振り返っていました。これまで、気持ちの赴くままに作っていたものをどのように作品としてまとめるか・今の時点での解答を用意して、13日Jeanetteとの顔を合わせての最後のミーティングに向かいました。

約3週間ぶりにBritish MuseumのカフェでJeanetteと再会。二人で一枚の紙にそれぞれの作品案を描きながらexciteして話し合う私たち二人を周りの人々は不思議に思ったのではと思います。二人で一緒に制作していた期間が終わり3週間以上経つのですが、話しはじめればすぐに作品の話に戻れることを嬉しく感じました。ともにスタジオで過ごした6週間があるので、帰国後のeメールでの制作状況のやりとりでも、お互いの作品について理解することができるだろうと思います。

14日イギリス出国、翌日、日本に帰国しました。

帰国報告のためいろいろな人に会ったり、日本の夏の楽しみである花火やスイカを一通り楽しみ終えた今、日本での制作がスタートしつつあります。とりあえず、イギリスで制作したものを自分のスタジオに広げ、それらを確認することから始めています。最近、Jeanetteと過ごした時間の中でもらった、一つのアドバイスがよく心に浮かんできます。それは、『but』はだめ、ということです。私はよく自分の作品に対して「これは好きだけど、まだ充分じゃない」という表現をよくします。するとJeanetteは「『けど』ではなくて、『and』を

使うように。」と言います。だから私はこう考えるようにしました。「これは好き。そしてさらに、これからもっと楽しむ。」確かにそのほうが、もっと素敵な気持ちになります。

これから、さらに楽しみます。

イギリス滞在中お世話になった多くの方々、どうも有り難うございました。

吉本直子